

平藤喜久子さんとめぐる 【神話が生み出したもの】



講師

國學院大學神道文化学部 教授

平藤 喜久子

Hirafuji Kikuko

【ハイブリッド】丸の内キャンパス、オンライン(Zoom)いずれでも参加可能です。

神、神話を知ると、アートはもっと深くて面白い

人が人としての心を持つようになった頃から、神話は語られていたといわれます。もちろん、そのころの神話がどのようなものであったのかは、文字化されて伝えられていないため知ることはできません。しかし、旧石器時代には貴重なマンモスの牙で作られたライオンの頭を持つ男性像、石灰岩で彫られた女性像が登場します。暗い暗い洞窟の奥に描かれた絵画はアニメーションのようだと いわれます。これらは芸術の起源であるとともに、もっとも古い神話や神を知る手がかりと考えられます。神話や神の存在が芸術を生み出したということではないでしょうか。

「神話があったからこそ生み出されたもの」。このような視点で身の回りを見渡してみると、実に様々なところで見出すことができます。神を祀る建築としての神社。神に奉納するために生み出された芸能。神や神話に着想を得た絵画や文学もあります。「神、神話が生み出したもの」という新たな目で、建築や文学、芸能の世界をご一緒にめぐってみませんか？

Kikuko H.

10・26 | 土
14:00-17:00

神話をめぐる言葉

1

日本人は、神話とどう付き合ってきたのでしょうか。神話を伝える『古事記』は、偽書だといわれたこともあれば、逆に聖典として扱われたこともあります。神話が教科書で教えられた時代もあれば、教えられなくなった時代も。神話をめぐって語られてきた言葉に注目しながら考えます。

1・18 | 土
14:00-17:00

神話と芸能

一祭、神楽、舞台芸術など

4

神への祈りは、ただ手を合わせるだけではなく、踊りや劇の奉納といった形でも表わされてきました。古代ギリシャの劇は、神に奉納するだけでなく、しだいに商業演劇へと展開していきます。日本も神楽や神楽舞もあれば、猿楽、能、狂言も生まれました。

11・9 | 土
14:00-17:00

日本神話は海外で どう読まれたか

2

日本が国際社会に出ていった19世紀は、「翻訳の時代」でもありました。もちろん『古事記』や『日本書紀』も外国語に訳されます。そしてその翻訳を読み、あらたな文学へと昇華させる人も。その一人に小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)を挙げることができます。彼の眼差しに日本の神々の世界はどのように見えたのでしょうか。

2・8 | 土
14:00-17:00

神・神話をどう描くか

5

神話というと、ルネッサンス期のボッティチェリの「ヴィーナス誕生」をはじめとする絵画を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。もちろん、それだけではなく神、神話は映画にもそしてマンガにも表現されています。みなさんの「神話といえば○○!」、「△△って神話っぽくない?」を持ち寄って、神話の表現を考えましょう。

12・14 | 土
14:00-17:00

神話をめぐる建築

3

神話が生み出した巨大建築に出雲大社があります。出雲大社を手がかりに神社の建築に注目し、神と人間の関係が建築にどのように表現されたのかを考えます。出雲の神話文化についても取り上げます。

3・1 | 土
14:00-17:00

神話を感じる文学

6

『源氏物語』の作者・紫式部は「日本紀の局」とあだ名をつけられたといわれます。実は『源氏物語』には日本書紀の話から着想を得たのではないかという話があります。このように日本文学のなかには、神話と関わりのある作品がいくつもあります。中国の槃瓠(ばんこ)神話と『南総里見八犬伝』、泉鏡花の作品は日本の神々の世界が豊かに描かれています。神話を直接取り上げていなくとも、神話を感じる作品もあるでしょう。本棚に眠った本を久しぶりに取り出したら、そこに神話が、という発見があるといいですね。

進め方

各回、事後に感想や講師に質問したいことを所定様式に記入し提出いただきます。感想と質問はクラス全体で共有し、さまざまな観点・経験からの感想を互いに味わい学びます。

開催概要

日程	2024年 10/26、11/9、12/14、 2025年 1/18、2/8、3/1（すべて土曜日）
開催形態	ハイブリッド(丸の内キャンパス・オンライン)
回数	6回
時間	14:00-17:00(3時間)
定員	25名
会場	丸の内キャンパス、オンライン(Zoom)
参加費	110,000円(税込)
おすすめしたい方	・日本の神話、文化について理解を深めたい方 ・神話学の観点から世界と日本の神話について学んでみたい方 ・日本の価値観の始原に触れ、人生や生活、仕事にいかしたい方
詳細・申込み	

講師プロフィール

平藤 喜久子(ひらふじ・きくこ)

学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程日本語日本文学専攻修了。博士(日本語日本文学)。専門宗教文化士。専門は神話学、宗教学。

日本神話を中心に他地域の神話との比較研究を行う。また、日本の神話、神々が研究やアートの分野でどのように取り扱われてきたのか、というテーマに取り組んでいる。日本や海外の学生のために、日本の宗教文化を学ぶための教材を作るプロジェクトにも携わっている。

主な著書

『〈聖なるもの〉を撮る: 宗教学者と写真家による共創と対話』

(共編、山川出版社)

『「神話」の歩き方 古事記・日本書紀の物語を体感できる風景・神社案内』(集英社)

『神話でたどる日本の神々』(ちくまプリマー新書)

『世界の神様 解剖図鑑』(エクスナレッジ)

『現代社会を宗教文化で読み解く:比較と歴史からの接近』

(ミネルヴァ書房)

本講座は【ハイブリッド】形態で開催いたします。お申し込みにあたっては下記をご確認下さい。



丸の内キャンパス

どちらも参加可能



オンライン

ハイブリッド開催

- ・丸の内キャンパスとオンラインのいずれでも参加可能です。
- ・参加方法は毎回選択していただけます。ご希望は開催前にお伺いします。

オンライン参加方法

- ・オンライン会議システム Zoom を使って配信します。パソコン（またはスマートフォン、タブレット）およびインターネット環境があれば、どこからでもご参加いただけます。
- ・Zoom を初めてご利用の方には操作方法をサポートいたします。

お問い合わせ

東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル10階 株式会社慶應学術事業会
TEL:03-5220-3111 info@keiomcc.com

